令和4年度(令和3年度実施事業分) 主要事業評価各課総括表・2次評価表

2次評価者

教育部博物館（新美南吉記念館）

教育部長 岩橋平武

整理No	主要事業名	3か 年実 施計 画	事業の評価・課題		今後の事業の方向性	
			自己 評価	評価内容	方向性	内容
35-1	企画展事業	なし	B	来館者による感想ノートの評価は高いものの、コロナ禍により入館者数自体が減少しており、展示の質と観覧者数が直結しなくなっている。展示を紹介する動画を作成するなど、来館者以外への働きかけも行っており、こうした試みを他にどう展開するか、どう評価するかが今後の課題。ただし定量的な評価が無意味なわけではなく、withコロナに向けて、今後観覧者数も徐々に伸ばす必要がある。	改善 推進	新美南吉の魅力発信を主軸にしながらも時宜的な話題を捉え、来館者が何度も足を運びたい記念館を目指す。特別展では、南吉が死力を尽くして多くの作品を書いた昭和17年にスポットを当てる。企画展では、プロレタリア文学と南吉の関係に迫る「一枚の葉書」展、「ストップモーションアニメごん」の展示を行う。特に後者は世界的に評価の高い映像作品を扱った展示で、撮影に使われた人形等を展示するほか、作品そのものも鑑賞することができ、令和5年南吉生誕110年の皮切りとしてふさわしいものにする。
35-2	新美南吉童話賞事業	なし	B	令和2年度に引き続きコロナ禍における募集だったが、応募数は前年度と比較すると若干下回った。小中学生の部においてはコロナ禍前に近い応募数があり、市内からの応募割合も回復した。引き続き、市民からの応募数増と審査員の確保が課題である。	改善 推進	令和5年に迎える南吉生誕110年に向け、応募意欲を刺激するような募集要項の見直しを図る。今後も自由創作部門とともにオマージュ部門の浸透を図り、南吉作品の普及と顕彰に繋げる。第一次・二次審査員ともに、将来に向け持続的な審査体制の確立に努める。
課等長	1次評価（令和3年度の総括評価）					
B	時宜に合ったテーマで企画展を企画し、童話賞も市内小中学生の応募数が回復した。入館者数は引き続きコロナ禍の影響を大きく受けたが令和2年度に比して125%で回復傾向にある。中止していた事業も、端午の節句、読書会、展示ガイド、貝殻忌講演会など可能なものから再開した。SNSや動画を活用した情報発信も定着し効果を上げている。施設面では令和5年の新美南吉生誕110年を見据えた生家外壁の改修、展示リニューアル工事、トップライト改修工事の実施に向け前進した。しかし、老朽化し更新が必要な設備はまだ山積しており、長期的な修繕計画の立案と予算要求が課題である。					
部等長	2次評価（令和3年度の総括評価並びに今後の方針及び指示事項）					
B	コロナ禍により入館者数が減少するなか、赤レンガ建物との共通券を導入したことは、収入確保の努力と共に半田市の観光施策に寄与するものとして評価する。NPOと進める童話の森の整備と活用、矢勝川の彼岸花を守る活動を地域で支える仕組みづくりなど、市民や地域との協働推進は、令和5年の新美南吉生誕110年記念事業成功と持続的な顕彰活動の鍵となる視点なので常に意識すること。その上で市民が生涯を通して南吉文学に親しむ環境づくりに向けて、他課とも連携してその実現に中心的役割を果たすこと。あわせて顕彰拠点となる新美南吉記念館の施設を良好な状態に維持するために長期的視点で取り組むこと。					